

## ■ アメリカ研究留学

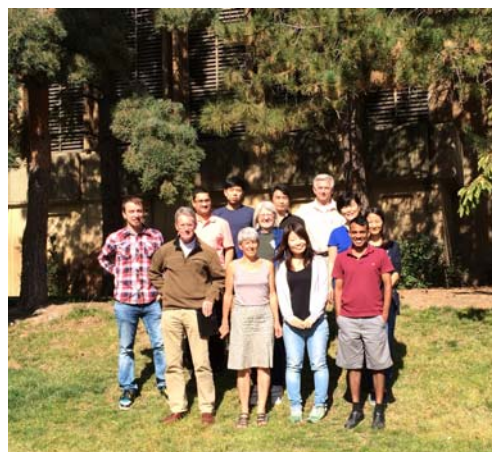
薬学研究科薬学専攻博士課程4年次生（寄稿時） 太田 智絵

私は2016年4月～9月の6ヶ月間、アメリカのプルマンにあるワシントン州立大学Norman G. Lewis教授の研究室に留学をさせていただきました。カンレンボクに含有するカンプトテシンの生合成の解明というプロジェクトのチームに所属させていただき、カンプトテシンの生合成過程で生成する中間体を単離していました。同じ研究チームのメンバーやポストドクとは常に研究についてディスカッションを行い多くの新しい発想のヒントを得ることができたことから、私自身の研究がスムーズに進行し主要なカンプトテシンの中間体を

得ることができました。また日々のディスカッションにより、私の英語力も向上にもつながったと感じています。こうしたアメリカでの研究留学生活で得た経験を今後の研究活動に活かしていきたいと考えております。また多くの学生に本学の大学院生海外留学制度を活用して国際的な視野を養って頂きたいと思います。最後になりましたが、本留学にあたり経済面に支援していただいた京都薬科大学科学振興基金並びに様々なサポートしてくださった本学の皆様に心から感謝申し上げます。



ワシントン州立大学の時計台

研究室のメンバー  
最前列右から4人目：Lewis教授  
最前列右から2人目：筆者